

所属	心理学研究科現代心理学専攻修士課程	修了年度	2024 年度
氏名	西岡あおい	指導教員 (主査)	加賀美常美代

論文題目	少年犯罪の原因帰属に及ぼす影響要因 ——少年殺人者イメージとインターネットとの関わり方に着目して——
------	---

本文概要	
<p>【問題・目的】 人々は犯罪や犯罪者に関する多様な情報がメディアの情報により構成された観念的で画一化されたイメージを通して犯罪や犯罪者を認知するとわかっている(岡田・安藤, 1994)。また, 犯罪のような複雑な事象を理解・説明するために一般住民は, 個人的な経験やマスコミなどからの情報をもとに, その人独自に作り上げた独自の理論(しろうと理論)を用いて犯罪に対して原因帰属的考えをする傾向がある(板山・加藤, 2009)。これらの研究を踏まえ本研究では, (1)大学生の少年殺人者に対するイメージ, インターネットとの関わり方, 少年犯罪者に対する原因帰属はどのようなものか。(2)大学生の少年犯罪者に対する原因帰属に, 大学生の少年殺人者に対するイメージ, インターネットとの関わり方がどのような影響を及ぼすのかを検討することを目的とする。</p> <p>【方法】 目白大学生 262 名を対象に 2024 年 6 月中旬~7 月上旬まで Web 調査を実施した。有効回答数は 262 部(男性 83 名, 女性 171 名, その他 5 名, 回答したくない 3 名, 平均年齢 $M=19.27$, $SD=1.244$) となった。尺度は①少年殺人者イメージに関する項目(犯罪者イメージの尺度(向井, 2021), 非行少年の少年院収容者イメージ尺度(岡本, 1997)) ②インターネット利用に関する項目(利用時間・利用開始年齢・インターネット行動尺度(藤・吉田, 2009)・犯罪に関する利用コンテンツ・インフルエンサーに関する項目) ③青少年非行の原因帰属関連領域の尺度(戴・大淵, 2004)(人格領域, 家庭領域, 学校領域, 地域領域, 社会領域) ④フェイスシート: 属性等を使用した。</p> <p>【結果・考察】 少年による殺人に対する原因帰属に影響を与えている要因を検討するため, 因子分析と相関分析を行った後, 重回帰分析を行った。独立変数を少年殺人者イメージ尺度の『非許容態度』『反社会的』『身体的特徴』『不適応』, インターネット行動尺度の『対人関係構築』『自己表現』『依存的関与』『自己客観視』『没入的関与』『自己開示』『所属感獲得』『攻撃的関与』, 犯罪に関するインターネット利用コンテンツ尺度の『マイナーな犯罪情報収集』『メジャーな犯罪情報収集』, インフルエンサー被影響尺度の『インフルエンサー被影響』と属性「年齢」「学年」とし, 従属変数を少年による殺人に対する原因帰属尺度[人格領域]の『衝動性』『無気力』『仲間からの被影響』, [家庭領域]の『家庭内不和』『不安定な親子・家庭環境』, [学校領域]の『学校教育の問題』, [地域領域]の『地域社会の問題』, [社会領域]の『社会の倫理欠如』『情報によるネガティブな影響』とし, 強制投入法で重回帰分析を行った。本研究の特徴的な結果として, 少年殺人者イメージの『不適応』という因子が, 5 領域すべてに正の影響を与えていたことが挙げられる。『不適応』因子には, 5 領域に関連した項目が含まれており, 少年殺人者イメージに対応する領域に原因を帰属したと推測される。また, 少年殺人者イメージの『身体的特徴』因子も, 家庭, 学校, 地域の領域に正の影響を及ぼしていた。この因子には, 身体的なネガティブな特徴に関する項目が含まれており, 身体的なイメージに関連する領域に原因を帰属させる傾向がみられた。さらに, インターネット行動の『自己開示』因子が, 地域や社会に対する原因帰属に負の影響を与えており, インターネット上で正直な感情を表現しないことが, [地域領域][社会領域]への原因の帰属に影響を与えていた。これは, 地域や社会, インターネットなどに対する不信感からインターネット上では自己開示をせず, 地域や社会, インターネットなどへの不信感が原因帰属にも影響を与えていると推測される。以上のことより, 少年による殺人に対する原因帰属は, 少年殺人者イメージ, インターネットとの関わり方によって原因帰属がされていることが示された。</p>	